

自大学の大学院教務を客観視してみよう 「大学院の理解のために」

大津 正知

茨城大学 教学イノベーション機構/情報戦略機構
masatomo.otsu.zc52 @ vc.ibaraki.ac.jp

自己紹介（大学とどのように関わってきたか）

I 出自・専門

長崎県生。物理学→科学史。20代の殆どは大学院生（理系・文系、在学中に大学院重点化）。現在の専門：高等教育マネジメント

II 経歴

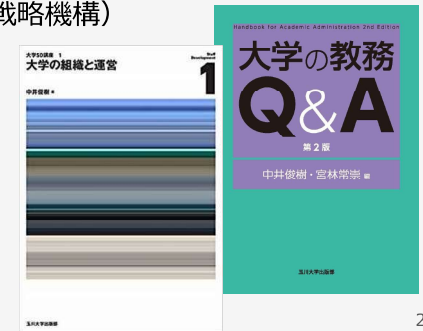
- ①特任助手 ②大学職員（国立大学約10年、私立大学約5年）
- ③現職（教学イノベーション機構/情報戦略機構）

II 業務歴

教育改革、大学評価、FD/SD、IR など

高等教育政策に対する

実務(実体験)的関心
+ 学術的関心



2

ここでの内容（大津担当分）

1. そもそも大学院とは何でしょう

大学院という仕組み、制度、組織、歴史、現在の政策動向などから大学院についての包括的な理解を深めましょう。

2. 大学院教務の特徴や課題

大学院の特質をふまえ、大学院教務の特徴や課題について考察しましょう（みなさんの業務を省察する切っ掛けになれば幸いです）。

3

質問

1. 大学院発祥の国・地域はどこでしょうか？
〔ヨーロッパ、アメリカ、日本〕
2. 日本の大学院はいつ始まったのでしょうか？
〔明治、大正、戦後〕
3. 学位の種類（博士、修士等）の目的にはどのようなことがあげられますか？
4. 大学院重点化とは何か説明できますか？
5. 大学院教育の課題は何でしょうか？

4

そもそも大学院とは ～基本的な構造～

大学院：制度上、大学（広義）に置かれるが、
大学（狭義／学士課程・学部）とは
別組織という位置付け

※実態は、学部・研究科で一体的運営も
→ 独立大学院

「大学院」≠「graduate school」
?

大学院という用語の曖昧さ、制度と実態の乖離
(・・・非効率な運営)

5

アメリカ発祥の大学院

ジョンズ・ホプキンス大学（1876）

19世紀

アメリカの大学は紳士や牧師の養成機関（専門職養成は徒弟制）
アメリカの大学卒業者が科学の先進地ドイツに留学
帰国後に、高レベルの教育をアメリカの教育体系の中に組織化

「カレッジ（リベラルアーツ）」⇒「ユニバーシティ」

大学院の発展

- * 高度な教育研究機関としての地位を確立
→ 大学院（アメリカ）or 研究所（ソ連）
- * プロフェッショナル・スクールの発展

6

日本の大学院制度の歴史

帝国大学（1876）分科大学＋大学院

大学令（1918）学部にはすべて研究科を置く
研究科の連絡調整としての大学院

学校教育法（1947）

大学基準協会「大学院基準」（1949）新制大学院

大学院設置基準（1974）

学校教育法の改正（1976）等により大学院の性格を再定義
（研究者養成以外の目的、課程制博士の趣旨、従業年限の弾力化、
独立大学院、博士後期のみを設置、他の大学院との連携、・・・）

80～90年代以降 臨教審、大学審議会等の答申を受けた改革

専門職大学（2003）

7

<参考> 大学院に関する答申等

臨時教育審議会 第2次答申（1986）第3次答申（1987）
大学審議会（1987-2001）答申等

- 1988「大学院制度の弾力化について」
- 1991「学位制度の見直し及び大学院の評価について」
- 1991「大学院の整備充実について」
- 1991「大学院の量的整備について」
- 1993「夜間に教育を行う博士課程等について」
- 1996「大学院の教育研究の質的向上に関する審議のまとめ」
- 1997「通信制の大学院について」
- 1999「大学院入学者選抜の改善について」

中央教育審議会（2001-）答申

- 2002「大学院における高度専門職業人養成について」
- 2005「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－」
- 2011「グローバル化社会の大学院教育～世界の多様な分野で大学院修了者が活躍するために～」

近年では（中央教育審議会大学分科会（審議まとめ））

- 2019「2040年を見据えた大学院教育のあるべき姿～社会を先導する人材の育成に向けた体質改善の方策～」
- 2023「人文科学・社会科学系における大学院教育の振興方策について」

8

日本の学位の歴史

学位令（1887）

博士・大博士（授与なく廃止）／総長推薦等

1920改正

研究科に2年以上在籍、論文提出、審査合格
or 論文、同等の学力・・・現在の課程博士と論文博士の原型

学位規則（1953）＜学校教育法に根拠＞

博士に加え、修士が登場 大学院と学位が制度的に統合

1974改正

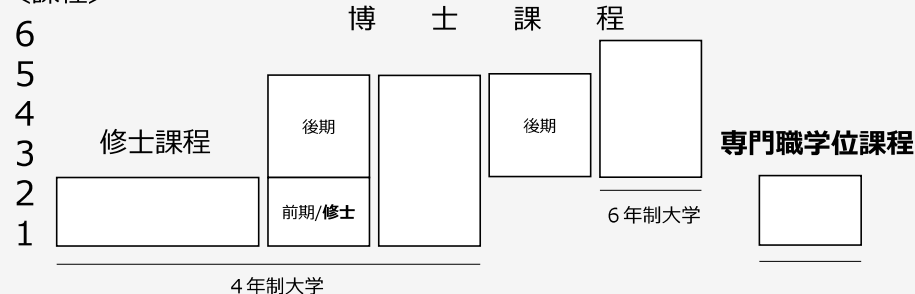
- ・「課程修了＝学位」という考え（論文博士も継続）
- ・博士：自立して研究を行う能力 ← 権威的実績
- ・修士：職業に必要な高度な能力が追加

1991 分野別の博士・修士の種類の廃止 2003 専門職学位

9

＜参考＞ 現行制度のおさらい

〔課程〕



〔目的〕

大学院設置基準

（修士課程）修士課程は、広い視野に立つて精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。

（博士課程）博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

専門職大学院設置基準

（専門職学位課程）専門職学位課程は、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的とする。

10

大学院重点化とは

従来、政府は国立大学の大学院設置には抑制的
→旧制大学にのみ設置（旧帝等の特権、講座制、予算格差）

徐々に地方国立大学の大学院設置が進む中

大学院部局化（「学部教員→研究科」⇒「研究科教員→学部」）に
よって校費増を実現（東大法から、東大他、旧帝、旧官立大へ）

・・・狭義の大学院重点化

国公私含めた、院生増(90年代に倍増)、改組・拡充等の
大学院教育重視の施策

・・・広義の大学院重点化

＜背景＞

知識基盤社会に必要な人材育成、組織的な研究スタッフの必要性、
大学のステータス、大学進学率の上昇に連動、・・・

--- 学士課程を含めた再構築は？ 社会のニーズとの緊密な繋がりは？

11

ここでの内容（大津担当分）

1. そもそも大学院とは何でしょう

大学院という仕組み、制度、組織、歴史、現在の政策動向などから大学院についての包括的な理解を深めましょう。

2. 大学院教務の特徴や課題

大学院の特質をふまえ、大学院教務の特徴や課題について考察しましょう（みなさんの業務を省察する切っ掛けになれば幸いです）。

12

大学院教務の特徴とは？①

＜大学院教務の実態＞

- 業務が曖昧、確立されていない
 - 各大学で様々に（その場のぎぎに？）対応
 - “超”柔軟な対応も必要？ 例外、特異事項が多い？
- 業務の範囲が広い
 - 一般の教務業務に加え、改組、入試、学生・留学生支援等
- 事務組織が確立されていない
 - 学部事務が兼務、複数の研究科事務を兼務
- 他の事務部と比べて指揮系統が曖昧
 - 教員との距離が近いが、事務組織の中で孤立しがち？

13

大学院教務業務の特徴とは？②

＜大学院教務の実態＞をもたらし要因

- 大学院という制度自体の曖昧さ（学部と一体？）
- 学生（院生）が比較的少ないかつ多様
- 教育課程という考えが浸透していない（非組織的）
- 指導は各教員（研究室）任せ（ブラックボックス）
 - 業務をパターン化、ルーティン化しにくい？
 - その場限りの対応が却って効率的？

* 大学としても資源（人員、予算）を割きにくい？

※特化できる業務（研究支援URA等）は専門職化の動きも

14

質問

みなさんが考える大学院教務の特徴（課題）は、どのようなことがあげられますか？ また、そのような特徴（課題）をもつ要因にはどんなことが考えられるでしょうか？

15

大学院教務の在り方とは（個人的意見）

政策における大学院の方向性 = 課程制大学院の確立
〔今後も徒弟制的な仕組みも存続？ 制度と実態の乖離も継続？〕

要は、個人指導 と 集団指導 相補的な関係
院生間の競争 と 多様な支援 の適切なバランス

大学院教務の役割：組織的活動への介入

・・・システムティックに行う施策を整備

- ⇒ 協働（教員、他部署）、役割分担、・・・
業務の可視化、組織化、・・・
法令、大学院の動向や政策の理解、・・・

16